

ネットワーク Network

アークに寄せられるお便りや情報から、それぞれの地域で個人またはグループで自ら動物問題に取り組み、動物の保護活動や動物愛護の啓蒙活動をしている方々がいらっしゃることがわかります。このコーナーでは、それぞれの地域で個人またはグループで迷い動物の保護活動、動物問題についての啓蒙活動などに取り組んでいる方々を紹介します。今回は、堺市の三島京子さん、仲井千賀子さん、松浦文代さん他約20人の主婦の方々のネットワークをご紹介します。

わたしたちが三島さんたちの動物保護のネットワーク活動を知ったのは、アークのメンバーを通じてでした。堺市の住宅地で三島さんが皮膚病にかかった犬を散歩させていたところを、通りかかったアークのメンバーのひとりが話しかけたのです。少し前に保護されたその犬は、下半身がいわゆる「はげちよろけ」の状態でした。放っておいて保健所に捕獲されたら、その先の運命はわかっています。かといってこのままでは誰ももらってくれません。そこで三島さんが自分で獣医師に診てもらい、皮膚病が完治してからネットワークを通じて里親探しをしようと考えていたところだったのです。

会社勤めをしながらの、迷い犬や猫の保護・里親探しの活動は決して容易ではありません。「会社の行き帰りなどでも、悲しそうにとぼと歩いている子とつい目が合ってしまうんです。キリがありません。」しかし、真に犬・猫好きの主婦たちが互いに連絡を取り合って、保護した犬・猫のもらい手の情報を交換しているうちに、だれが組織するでもなく里親探しのネットワークが出来上がっていました。そして今では自ら発行するミニコミ誌「あにまるVOICE」を通じて里親の募集をし、さらにペットとの適切な生活のしかたを紹介しています。

ネットワークの5人の方々に会いました。わたしたちが驚いたのは、三島さんたちの里親の審査がアークの基準並みに厳しいということです。「ただ犬や猫がほしいというだけでは里親にはなりません。責任をもって一生を家族同様に生活してくれる人でなければ。必ず避妊・去勢手術もしてもらっています。」里親にもらわれていく「子たち」が、今よりずっと幸せでいてほしいという皆さんの真剣な想いが伝わってきました。同時に明るい方々ばかりなのが印象に残りました。「自分の生活を大切にしてください。楽しみを見いだしながらボランティアをしましょう。」というのは、動物愛護に携わる皆さんに向けた三島さんのメッセージです。先の皮膚病だった犬も今では完治して、ネットワークの呼びかけで見つけた里親のもとで幸せに暮らしています。

皆さんご自身の体験に基づいた手記の原稿をお寄せください。採用させていただく場合には、担当者からさらに詳細をお尋ねすることがあります。第三者の不本意な利用を避けるため、住所などの個人情報は掲載しません。

バジャーは勉強が大の苦手。
でもそんな彼を納得して、
アークで彼が毎日をどのように
過ごしているかを手紙に書いて
もらいました。彼の目から見た
アークでの生活をご紹介します。

ほくは何でも好きなようにやって、まあいいやとがんがえるせいかくだとおもう。だけど、オリバーさんのいえにすむようになってすぐに、ここでいちばんえらいのは、人げんではなくて犬だということがわかりました。ちょっとこわいからあまり大きなこえで名前はいえないけど、ジャンキさんといういちばんえらい犬が、へやにはいつてくるときは、いつもほくたちほかの犬が、なぐんがえらい犬さんがきたとみんなおもうようなかんじがします。せんばいのほかの犬はおなかをみせてねころがったり、ゆがにはいつくばってへへーとしたり、ほかのせんばいは頭をさげたり、目をはん分つがつてねているまねをするんですよ。ジャンキさんはほくのこを、ほんとにすぐにオーケーしてくれて、ほくはながまに入れたんです。それでジャンキさんももつとえらくなるんですしね。せんばいたちがおしえてくれたんだけど、ジャンキさんはもう少しで14さいになるんだって。でもまだだれもジャンキさんとケンカしてかとうとはしません。ほくながぜつだいにまだまです。



いちばんのなかよしワイミーといっしょに
with my best friend, Why Me

Badger hates to study !!
But we persuaded him to
write down his daily
experiences at ARK.
Here is his life from a
dog's angle...

I think I'm a pretty free
and easy fellow but as
soon as I joined this
household I quickly
discovered that the
'boss' here is not a
human but a dog.
Whenever this 'dog'
whose name I must whisper
"Junket", enters the room she
carries such an atmosphere that
all the other dogs show respect in
various ways. Some of them roll over on
their backs, others grovel along the floor and
others keep their heads down, eyes half
closed pretending to be asleep. Junket didn't
object to me in the least, after all I'm just
another addition to her 'pack' which gives her
added status. The others tell me she getting
on in years, about 14, but nobody is ready to
challenge her yet. Least of all me.